

## 令和7年度第2回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会・会議録

### 《開催概要》

#### ■開催日時

令和7年11月18日（火） 午後5時から午後7時まで

#### ■開催場所

さいたま市市民活動サポートセンター 北ラウンジ

#### ■出席者名

##### □委員

春華未来、金福漢、金尾美知子、大地恒一郎、高橋司、日榮貴子、花島敏夫、堀江光夫、福島康仁、武井佳美、大橋太郎、渋谷浩司、林勇

##### □事務局

橘一郎、石井崇、小松崎涼介

#### ■欠席者名

##### □委員

高橋浩、長島謙、武原忠志、奥山吉寛、島田正次

#### ■議題及び公開又は非公開の別

##### □議題

相談しやすい環境の構築について

##### □公開又は非公開の別

公開

#### ■傍聴者の数

0名

#### ■審議した内容

相談しやすい環境の構築について

#### ■問合せ先

さいたま市市民局市民生活部市民協働推進課 電話番号：813-6403

#### ■次第

1 開会

2 報告

（1）実施事業について

3 議事

（1）相談しやすい環境の構築について

4 閉会

## 《会議録本文》

### 1 開会

座 長： それでは定刻となりましたので、令和7年度第2回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会を開会したいと思います。それでは事務局より、本日の出欠状況と傍聴希望者の報告をお願いいたします。

事務局： 本日の出欠状況ですが、高橋浩委員、長島委員、武原委員、奥山委員、島田委員より、欠席の連絡を受けております。現在、傍聴希望者はお見えになっておりません。本日の会議では、不開示情報にあたる個人情報の取扱い等もありませんので、公開とするということでよろしいでしょうか。

座 長： 皆さん、よろしいですか。会議途中の傍聴につきましても、会議運営上問題がないかぎり、随時許可したいと思います。続いて、事務局より会議資料の確認をお願いいたします。

事務局： それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。資料は事前に郵送させていただいておりますが、お持ちいただいておりますでしょうか。では、確認させていただきます。

まず、「次第」。続きまして、資料1「実施事業報告」、資料2「相談しやすい環境の構築について」、資料3「さいたま市市民活動サポートセンター利用状況」となっております。

本日の資料は以上となります。過不足等がございましたら、手を挙げていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

### 2 報告

#### (1) 実施事業について

座 長： それでは早速次第に沿って進めていきたいと思いますが、まず、次第の「2（1）実施事業について」、事務局より報告をお願いいたします。

事務局： サポセンで実施したセミナー及び交流イベントについて、事業報告させていただきます。

資料1の1ページをご覧ください。「パソコン講座超初級編(Word編)」について説明します。この事業は、印刷作業オウエンジャーによる個別指導でWordの基本操作を学ぶことで、市民活動団体の活動がより一層充実することを目的として企画されたものです。内容としましては、パソコン操作についての簡単な説明からスタートし、Wordの操作方法についての講義を行いました。講義は超初級編ということで、Wordのフォントや段落機能といった基本操作をメインとさせていただきました。各回の参加者のWord習得レベルに合わせた内容に調整することで、参加者が求めていたWord操作方法の習得につながりました。参加者の中には、市民活動団体の中で書記やチラシ作成担当になったが、Wordの基本的な操作方法を十分に習得しておらず困っていたという方や、過去に参加した別のパソコン講座では進度が早く内容についていけなかったため、より初級の講座を求めていたという方がいました。本講座を通じて市民活動の充実やデジタル化に寄与することができたと思っております。

次に、3ページを御覧ください。「パソコン講座超初級編(Excel編)」について説明します。この事業は、印刷作業オウエンジャーによる個別指導でExcelの基本操作を学ぶことで、市民活動団体の活動がより一層充実することを目的として企画されたものです。内容としましては、超初級編ということで、Excelでスケジュール表を作成しながらセルの選択や色付け、オートフィルといった基本操作をメインとさせていただきました。各回の参加者のExcel習得レベル

に合わせた内容に調整したことで、参加者の求めている Excel 技術の習得につながりました。参加者からは「市民活動で使用している会計資料をこれまでは手書きしていたが、これからは Excel を使用できるので負担が減る」「今回習ったスケジュール表の応用の仕方も教えてください、自分の活動に活かすことができる」といった喜びの声をいただきました。

次に、5 ページを御覧ください。「夏祭り飾り de 活動紹介パネル展」について説明します。この事業は、市民活動団体がサポセンに活動内容を展示し PR することで、市民活動の輪を広げ、他の市民活動団体や来館者とのつながりを構築することを目的として企画されたものです。「夏祭り」をテーマとした飾り付けで市民活動団体の紹介をするパネル展を開催しました。折り紙飾りや切り抜きなど、各団体が様々に工夫されたデコレーションでパネル展示を行い、ラウンジに季節感を演出することができました。例年ご参加いただいている団体や過去に参加経験のある団体に加え、今回初めてパネル展を知ったという団体にもご参加いただき市民活動の新たな交流と発信の機会となりました。参加団体からは、今回の展示を見て団体の活動に参加申し込みをされた方が数名いたとのご報告もいただいております、本事業の開催目的を実現することができたと考えております。

次に、8 ページを御覧ください。「ChatGPT 入門講座」について説明します。この事業は、文章作成や画像作成、アイデア出し等を手軽にできる「ChatGPT」の技術を活用し、活動の効率化や市民活動のレベルアップを目的として企画されたものです。生成 AI についての講義を通して、セキュリティやファクトチェックの重要性を理解したうえで、実際にスマートフォンを操作しながら ChatGPT の使い方を学習しました。参加者は講師の指示のもと、ChatGPT を使用した画像生成や写真に写る情報の解説依頼、文字起こしを実践し、苦戦しながらも ChatGPT への指示出しを楽しんでいる様子が見られました。参加者の多くはこれまでに ChatGPT を使用したことがなく、生成 AI を市民活動に取り入れる際のハードルとなる「最初の 1 歩」を本講座を通して提供できたことで、市民活動の効率化や活動のレベルアップに繋がったと思います。なお、当講座には定員の約 2 倍の応募があり、AI に関する講座への関心と需要の高さを実感する機会にもなりました。

今後も、市民活動団体の活動の幅を広げるきっかけとなるような事業を提供していきたいと思っております。事務局からの報告は以上です。

座 長： ありがとうございます。事務局から実施事業のご報告がありましたが、何かご質問やご意見がありましたらお願いします。

日 榮： ChatGPT の講座も Canva の講座も受けたかったのですが、市民活動をしていると講座開催日に予定が入っており参加できないことが多々あります。できれば、資料 1 の 9 ページのアンケートでも書かれているように、録画したものを配信する等の対応をしていただけると嬉しいです。そういった予定はありますか。

事務局： 以前の運営協議会でもご意見をいただいておりますセミナーのアーカイブ化・オンライン化については検討を図っているところでございます。講座によっては、グループワークにより皆様に実際に体験いただくことで、そのセミナーの理解が深まるといった性質のものもございます。そういった講座をアーカイブ化・オンライン化すると、参加者が受け身になってしまい、講座の習熟度が低下する可能性がございますので、こういったセミナーをアーカイブ化・オンライン化するかについては指定管理者と慎重に協議を行いたいと思っております。

日 榮： 人気のある講座については、3 日間ほど同じ内容で実施していただけると、参加できる可能

性も上がると思います。1日限定ですと、その日に予定が入っていると参加できないので残念です。

事務局： 大変失礼いたしました。開催日数については指定管理者と検討を重ねて参りたいと思います。

座長： 平日の昼間ですとなかなか参加できない団体もあるかと思いますが、ご検討をお願いします。アーカイブ化については著作権の問題等があるのでしょうか。

事務局： 講師それぞれのお考えがあるかと思いますが、アーカイブ化については講座によって随時検討する形となります。

座長： なるほど。アーカイブ化についても、指定管理者の方でご検討いただければと思います。他にはいかがでしょうか。よろしいですか。それだけ魅力ある講座が用意されているということでもありますので、今後も時勢に合った講座を開催していただくと良いと思います。

大学でも、学生が ChatGPT を使うようになってきたのですが、ChatGPT は事実と、それ以外の適当な情報を混同して出力することがあります。例えば判例においても、存在しない判例を ChatGPT が作り上げてしまうこともあったりするので、その辺りのこともおそらく講座で注意喚起をさせていただいていると思いますが、アイデアは上手に整理をしてくれるので、こういった講座の開催は非常に良いことだと思います。

### 3 議事

#### (1) 相談しやすい環境の構築について

座長： それでは次に行きたいと思いますが、次第の「3 (1) 相談しやすい環境の構築について」、事務局より説明をお願いいたします。

事務局： それでは、議事の「相談しやすい環境の構築について」、説明させていただきます。資料2の1ページをご覧ください。サポセンでは、窓口相談として、市民活動での実務（団体設立や運営等）における相談に対応しています。相談件数は毎月10から20件程度であり、様々な相談がなされている状況です。また、専門相談として、弁護士による法律相談は毎週木曜日、公認会計士や税理士による会計相談は毎月第3金曜日に実施しております。窓口相談で団体の定款・会則等の相談を受け、専門相談をご案内するケースもございます。

今回は窓口相談において、相談しやすい環境の構築（相談件数増加、雰囲気作り等）について、市民活動実践者の皆様から自由なご意見を伺いたいと思います。委員の皆様からいただいたご意見を参考にして、相談しやすい環境の構築に努めていきたいと思っています。

それでは2ページをご覧ください。令和6年度・令和7年度における相談対応例の一部を紹介させていただいております。市民活動をこれから始めたいといった相談については、サポセンの設備を説明したり、サポセンで開催しているイベント等を紹介させていただいております。サポセンを活用することで、市民活動を効率的に始めることができるように案内を行っているところでございます。また、サポセン内の展示方法に関する相談についても、以前ご説明させていただきました指定管理者制度により、民間のノウハウを活用し、市民活動団体に対して実践的なアドバイスを行っているところでございます。

続きまして3ページをご覧ください。こちらでは、市民活動団体の立ち上げについてご相談いただいた方に対して、立ち上げまで伴走型支援を実施した際の対応例の一部を紹介させていただいております。この事例では、会則の添削、団体のスキルアップのためのセミナーのご案内、サポセンフェスのブース出店に係る相談対応等を実施したところでございます。

なお、「相談しやすい環境の構築について」を議題とする以上、まずはサポセンという施設の存在を知ってもらうことが大切であるといったご意見もあるかと思いますが、セミナー、イベント等の案内においては市報、サポセン情報誌、公民館等市内各施設へのチラシ配架、X（旧Twitter）等SNSの活用を実施することにより努めているところでございます。サポセンの周知といった観点以外でも、市民活動を実践されている皆様の視点からご意見をいただければ幸いです。事務局からの説明は以上です。

座長： ありがとうございます。委員の皆様も相談に訪れたことがあるかと思いますが、実際にサポセンを利用してみて、相談しにくかった、もしくはこういう点がよかったとか、お気づきの点があれば、ご指摘をいただければと思います。いかがでしょうか。

春華： 相談しやすい環境の構築においては、まず設備面での問題があるかと思いますが。相談スペースがあるのに、その前に職員さんが門番のように立っていて入れないとか、これまでそういった他自治体の様々なセンターを見てきました。

さいたま市のサポセンは非常に設備が整っていて、テーブルも多く、広く使えて良いと思います。ただ、その大きさが逆にマイナスになっていることもあるのかなと思っています。他のセンターと比べて、総合受付と各テーブルまでの距離が遠いと思います。ですが、センターが小さいと設備が十分に整備されておらず使用しづらいといった問題もあるので難しいところですね。近隣の自治体では、フラットで垣根がない雰囲気センターもあって、お母さんが子供を連れてテーブルで寛ぐことができるスペースも作られていました。

また、相談のしやすさには雰囲気も重要であると思います。いかにも役所のような雰囲気だと、やはり相談しづらいですね。笑顔で窓口に座っていらっしゃる方や、カウンターから出てきてくださる方がいたら相談しやすくなると思います。

座長： なるほど。施設によってかなり雰囲気が違うのですね。他自治体の施設と比較してさいたま市のサポセンはいかがでしょうか。

春華： テーブルが広く、ロッカーやメールボックスもある施設なのでとても使いやすいです。ただ、そういった設備があることが知られていないという周知の問題がありますね。他自治体の場合ですと、役所の住民票の交付窓口等が併設されているんです。何か手続きがあると市民活動やボランティア募集のチラシ等に触れる機会があるので、自然に生活に溶け込んでいる感じがします。

座長： 小さい自治体ならではの市民との近さも影響しているかもしれませんね。さいたま市も区に分かれていますので、このサポセンとうまく繋がっていくと良いかなと思います。何か他にご意見はありますか。

大橋： サポセンに限らず、一般の窓口も含め、相談しやすさについて意見させていただきます。3市合併の際に、理想的なボランティアセンターをつくるため、東京都北区のボランティアセンターへ視察に行きました。そこで何より違ったのがあいさつです。施設に来客があった際に、スタッフが大きな声で「こんにちは」と言うかどうか。「こんにちは」は、お客さんが来た合図だとも思います。職員の誰かが「こんにちは」と言ったら、ほかの職員も続く。施設に入館した際に、カウンターの中の職員が後ろを向いていたらもう相談する気になれませんよね。笑顔で挨拶をすることが、相談しやすい環境の構築において重要だと思います。

それから、職員さんがダラダラと出てこないんです。ちょっと小走りで出てこられるんです。皆さんお忙しいのは分かるのですが、その忙しさが相手に伝わってしまっただけだと

思います。小さな施設であればまた話は変わってくるかと思うのですが、大きな施設であれば、こうした姿勢も必要になると思っています。

私は昔、大宮区の所長として勤務していた際に、10区の中で「挨拶だけは一番で」という目標を立てていました。特にコロナ禍で、飛沫感染防止のためのアクリル板により市民との距離感ができていた時代だったので、誰かがお客さんを見つけたら「こんにちは」と大きな声で挨拶することを徹底していました。

座長： 貴重なご意見をありがとうございます。やはり声をかけてもらおうと、市民としては相談しやすいですね。おっしゃる通りです。

春華： それはあるかもしれません。確かに、相談しやすいようなところは、必ず声をかけてくれるんですね。施設に入ったときに、こちらを向いている人が1人でもいて声を掛けてくれると、相談しやすくなるかもしれません。

座長： そうですね。市役所でも、窓口の方を向けて机を並べていたり、いろいろ配置を工夫しているように、窓口の方々が来館者を見て挨拶してくれると、相談しやすいのかもしれないですね。他はいかがでしょうか。

大地： 窓口相談は、館内に表示等はあるのでしょうか。

事務局： 館内に総合案内という形で表示をしております。

大地： それは「お気軽にご相談ください。」といった記載がある形でしょうか。

事務局： 申し訳ございません。現状ではそこまでの表示は行っておりません。

大地： 区役所に行った際には、案内係の人がいらっちゃって、どこに相談したらいいか教えてくれるのですが、サポセンにもそういった機能があると良いですね。人員を配置できるかどうかは別として、相談しやすい雰囲気にはなると思います。役所の方々もいろいろお仕事をされている中で、集中していると来客に気づけない事もあると思うので、窓口を気にしている人がいないと難しいのかなという気がします。

座長： ご意見いただきありがとうございます。相談しに来た人が、どこにどう相談したらいいのかわからないといったようなことはありますよね。病院でもそうですが、何科を受診したら良いのかなかなか分からないですね。お医者さんの方は何科だとすぐ分かるかもしれませんが、患者さんからすれば、今自分のこの病気は何科にかかればいいのか分からないので、今おっしゃられたように、案内できる人がいると相談のハードルが非常に低くなると思いました。

花島： 私はコミュニティ課に直接行くことが多いのですが、正面に受付がありますよね。南区役所も1階にもあるし、お店もあるし、どこの区もあるはずですね。机の位置もみんな窓口を向いているとかえって圧倒されてしまいます。区役所に行けば職員が気付いてくれます。どこに行ってもいいかわからない人は、少ないのではないのでしょうか。市民活動をされている人って、どこに相談したらいいかわかる人が多いと思います。

大地： おそらく、そうではない人、市民活動をこれから始めるような人が相談するときはどうしたらいいのかわかって話なのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

春華： 今回の議題は市民活動をこれから始めるような人に向けたものといった解釈でよろしいのでしょうか。

座長： 花島委員がおっしゃられたのは、今実際に市民活動をしている人達の場合ですね。

花島： そうです。サポセンの相談窓口のカウンターを見ても、60センチ以下で低いじゃないですか。ですので特に問題ないと思います。相談しやすい環境にしたいのであれば、声掛けをすればいい

いんですよ。私も展示会では、お客さんに対してどんどん声掛けをしていきます。区役所でも上司が部下に対して、来庁者に声掛けするよう指導しているんじゃないですか。

座長：確かにそうですね。一方で大地委員は、市民活動をこれから始めようという人のお話をされていらっしやいます。ある程度活動している人であれば、何をどこに聞けばいいのか分かるかと思いますが、逆にこれから始めようという人は、何をどこに聞けばいいのか分からないといったこともあるかと思います。

日榮：チラシ置き場が、現状ですとサポセンの奥の方に纏まっているんです。纏めることによる利点もあるかと思うのですが、逆に入りづらいといったデメリットもあります。私たちの活動のチラシをそこに何度も置かせていただいていたのですが、全然減らないんです。10階の浦和コミュニティセンターや、8階の中央図書館にチラシを置いた方が減るんです。チラシ置き場のレイアウトについて、何か検討される機会はあるのでしょうか。他の施設では、エレベーターを降りてすぐの所にチラシが並んでいて、初めて来る人でも自由に通り抜けできるようになっています。

それから、総合受付のカウンターの中にいらっしやる方に、チラシを置きたいと相談したことはあったのですが、自分の団体の活動の悩み事を相談できるとは思っていなかったんですね。相談できるということはどこに書いてあるのでしょうか。

座長：サポセンに相談機能があることを、そもそも認識されていなかったということですね。周知の問題かもしれませんね。

日榮：弁護士さんや公認会計士さんに相談する機会があることは知っていたのですが、市民活動に関するちょっとした相談までできるということは知りませんでした。「市民活動に関する相談がありましたらお声掛けください。」といった記載がどこかにあると良いと思います。

春華：実は私も相談したことはないんです。自分で調べたり、他の団体の方に聞いたりしていました。

大地：今回の議題を見て、相談業務のことがどこかに書いてあるのかなと思ったんですけど、サポセンのしおりにも書いてないんです。日榮委員がおっしゃったように、相談業務の認知度がなければ、「分からないことがあればお気軽にご相談ください。」といった文言がどこかにあってもいいのかなという気がします。

事務局：貴重なご意見をいただきありがとうございます。この施設の名称自体がサポートセンターですので、相談していただける場所であろうという認識がございました。専門相談については先ほど日榮委員がおっしゃられたようにチラシ等を配って周知を行っておりまして、窓口相談をいかに受けやすくできるかということで、本日皆様のご意見を伺いたいと思っておりました。ですが、そもそも窓口相談に関する案内自体がないという点については皆様のおっしゃる通りですので、今後窓口相談の周知については検討していきたいと考えております。

春華：私の体験談ですが、窓口業務では職員の方々がお互いに向き合っておしゃべりをしていると、それが仮に業務に関する話だったとしても、来館者アンケートで苦情を書かれたりすることもありました。そこで、エレベーターの扉が開いたら「いらっしやいませ」と声掛けをするようにしたところ、状況が改善しました。それから、窓口の方々がカウンターの外まで出てきて声掛けをしてくれると、より相談しやすくなると思います。

座長：先ほどの挨拶と繋がるお話ですね。他にはいかがでしょうか。

金：サポセンでは外国人の方々からご相談いただく機会はあるのでしょうか。

事務局： 頻度として多くはありませんが、外国人の方々からご相談いただく機会もございます。

金： 通訳のボランティアを設置する等、できれば外国人の方々が増えやすくなるような工夫も、窓口に少し欲しいなと感じました。

座長： 現在のサポセンの案内は日本語表記のみでしょうか。

事務局： サポセンでは、施設のトイレ等については多国語で表記しております。外国人の方々のご相談につきましては国際交流センターをご案内することもございます。その他にも高齢者の方々のサポートを行うセカンドライフ支援センター（り・とらいふ）や、消費生活に係る相談を行う浦和消費生活センターも併設しておりますので、市民活動以外のご相談であっても繋げていきたいと思っております。

堀江： 同じフロアでご案内すれば来館者が行くかもしれませんが、どこに声をかけていいかわからないですね。機能的にはそれで良いんですけど、初めて来た方が、どこへお声を掛けていいかわからないと思うので、「こちらへご相談ください。」というパネルを明示しておけば、ここへ行けばいいんだと分かるようになりますよね。多国語表記であればより分かりやすくなると思います。

事務局： 困っている来館者の方々に対して、待ちの姿勢ではなく、お声掛けしてご案内できるよう、改めて対応していかなければならないと思っております。

高橋司： 先日、第15集会室で大きなイベントがあったんですね。第15集会室への案内はあるんですけどなかなか分らなかったんです。そういったときに、サポセン職員の方にご案内はしていただいたんですけど、何か大きなイベントがあったとたくさん人が来そうだなと思ったら、そこに1人ご案内する方がいれば、迷わず会場に行けるのではないかなと感じました。

あとは皆さんがおっしゃられたように、エレベーターを降りたら、総合案内や相談窓口がすぐ分かるような表記をしていただけると、迷わずに行けるのではないかなと考えております。

花島： サポセンに入館すると、受付の方が来館者を見えていますよ。目が合いますから。あの人数でさらに人を配置するのは大変だと思います。

座長： 今ご指摘があったように人を配置することはなかなか難しいと思うので、館内表記を工夫するのも1つのアイデアですね。

私は他の政令市で指定管理の審査をやっておりまして、毎年モニタリングに行くんですけど、なかなか行政ではできない発想で館内の案内が非常に分かりやすく工夫されていたりするので、そういった工夫はやはり必要なかなとお話を聞いていて思いました。人を配置して案内することは難しいので、どこに何があるのかすぐ分かるようにできると良いですね。他はいかがでしょう。

金尾： 一昨日の日曜日に子ども家庭総合センター（あいぱれっと）で「さいたま市子どもの居場所フェスティバル 2025」に参加させていただいたのですが、20歳の学生さんがたくさん応援に来てくれたんですね。私は大宮区で活動をしているのですが、どこの団体も後継者が少なくなって、規模が縮小気味になっていることが悩みの種なんですね。ですが、今回はイベント企画をしている20歳の学生さんが20人ぐらい来てくれて、私共のボランティア活動を見て、「すごく心を動かされた。こういう活動をしたかったんだ。」といった感想を述べてくれたんです。私も具体的にこうした方が良いというのは、2日前のことなので分かりませんし、行政さんが何か知恵を出してやってくれるとありがたいと思うのですが、ボランティア活動に興味を持っている若い子たちが、20歳の良い時代に、人様のために自分の人生の深みにできるような何

かがあったりすると良いなと思いました。名前も住所も分からない学生さんでしたが、ぜひサポセンからでも、社会福祉協議会さんからでも、子供たちにアプローチをしていただいて、相談できる場所になっていただけると、あの子たちも輝くし、今後より高齢化社会となっていく中で、優しい地域社会になるのではないかなと思いました。本当に貴重な経験をさせていただきました。そんな素晴らしい子供たちも今たくさんいると感じましたので、ご報告させていただきたいと思います。

座長：ありがとうございます。次の担い手をどう育てていくのかといった問題は、前回の運営協議会でも出ていたのですが、若い人たちが市民活動に参加したいと思っても、なかなか敷居が高いといった現状がありまして、入口がなかなか見つからないんですね。自治会でも、入りたい人が入ってくれば良いといった議論もあるのですが、若い人はやっぱり入りづらいといった現状がボランティアでも存在しています。ですから今お話を聞いていると、まさにその辺りの敷居を低くして、市民活動やNPOやボランティアに参加したいといった相談ができれば、サポセンで繋げていただくと良いかもしれません。

サポセンでは、市民活動やNPOやボランティアに参加したい人を繋げる機能はあるのでしょうか。

事務局：担い手の育成は我々も課題として認識しておりますので、イベントであったり、セミナーであったり、若い方々を対象とした催しも開催させていただいております。また、サポセンではボランティア募集团体とボランティア希望者のマッチングを目的としてボランティア募集のための掲示コーナーを設けております。ですが、申し込みがまだまだ少ない部分もありますので、適切なマッチングが可能となるよう検討が必要であると考えております。

座長：マッチングの機能自体は存在しているということですね。

実は今日大学で授業を終えた後に、1年生の学生から、ボランティアをやりたいけれどどうやって見つけたら良いですかと相談を受けたんですね。このようにボランティアを希望する学生もいるんですが、大学内に掲示が貼ってあっても申し込まないんですね。やりたい人がやれば良いといった話もあるんですが、なかなか1歩踏み出せなかったりもするので、サポセンでも相談できるようになると良いかなと思いました。

私の大学では、自治体と連携し、行政ボランティアとして学生を派遣しているのですが、これが結構好評なんです。23区のとある区へボランティアに行くと、その内の何人かは必ずその区を志望して職員になっているんですね。やはりボランティアの入口は重要だなと私も思っているところですので、そういった相談も乗っていただけるような機能があってもいいかもしれませんね。NPOや市民活動団体で、もっと若い人達に入ってきて欲しいと思っているところはたくさんありますので、そういったところとの繋ぎ役も相談を通してできるかもしれないと思いました。

大地：若い世代の方々がこの場にはいないことがまず問題ですよ。例えば私の同窓会でも、周年プロジェクトは20代、30代の方々に任せないと、新しいアイデアが出てこないんです。昔の方々が作った既存の町内会や自治会に入りたいて人は、おそらく今それほどいないのではないのでしょうか。伝統を繋いでいくのであれば、中身を少し変えて新しい形にしていかなければならないと思います。SDGsについて当たり前のように小学校から学習しているわけですから、ボランティアに対して何の抵抗もない若者も多いと思うんです。ご年配の方々の意見も大事だと思いますけれども、若い方々のアイデアも生かせるような工夫が必要なのかなと思います。

座 長： 非常に重要な視点だと思います。若い人達を会議体に入れるということも1つの方法ですよ  
ね。

堀 江： 大学生を活用する方法もあると思うのですが、大学生は在学している間だけですよね。担  
当している職員さんも一生懸命やってはくれるのですが、一過性で終わってしまうんですよね。  
私も経験があります。学生さんが入ってくれたら、一生懸命やってくれるだろうと期待するの  
ですが、その方々がいなくなったら、そのまま引き継ぎがないんですよね。そこで途切れてしま  
う。

今、私がやっている活動では、参加する人達に向けて楽しみを作っているんです。春先には  
たけのこ、秋口には原木しいたけを取らせるという取り組みを行っています。そういった形で  
若い人を呼び込まないと、なかなか難しいのかなと思っています。

春 華： エレベーターを使って9階まで上がらないと、サポセンがあることが分からないので、施設  
を利用する上でのハードルが高いですよね。中央図書館の上に何があるのか知り合いによく聞  
かれるので、サポセンの存在を知らない人も多と思います。例えば、ボランティア、シルバ  
ー人材センター等の人達が、外でサポセンの案内を行うといったことができれば良いですよ  
ね。

また、若者への周知となると、今一番拡散力が強いのはInstagramだと思います。Instagram  
はホームページと違って、自発的に閲覧しに行く傾向が強いです。ホームページは各サイト  
によってレイアウトが異なり、場合によっては分かりづらいこともあるので、それが相談のし  
づらさに繋がっている気がします。

座 長： 一番の周知はやはり口コミなんですよ。この運営協議会が市民活動をされている皆様を集  
めているのは、ここで協議するといった目的もあると思うのですが、ここから口コミで色々な  
ものが広がっていくことを期待しているのではないかなとも推測しているのですが、そういつ  
た理解でよろしいでしょうか。

事務局： 必ずそうしてほしいということではないのですが、さいたま市のサポセンは1ヶ所だけでご  
ざいますので、地理的には遠い区の方々もいらっしゃいますが、そういった方々のご意見を伺  
いながら、サポセンを良くしていこうというところでお集まりいただいております。ですが、  
皆様も各区の市民活動ネットワークに所属しているかと思っておりますので、そういったゆるやかな  
繋がりのある団体の方々に対して、運営協議会の内容をお話いただければ、その情報が広がっ  
ていきますので、そういった部分を期待しているところは確かにございます。

座 長： そうですよ。おそらくそれぞれの区でキーマンと言われている人達を集めて口コミで広が  
ることを、市として期待する部分はあるかと思えます。先ほどからお話を聞いているとやはり、  
サポセンがある9階までエレベーターで上がってくると自体が難しいですよ。ここに相談  
に来ることは、まさにホームページを見に行くことと一緒に、興味がなければ見に行かないで  
すし、サポセンに興味がないと普通は来ませんよね。先ほどお話が出たたけのこ掘りは非常に  
入口として良いと思います。サポセンに行けば相談できるといった口コミが広がっていくと良  
いと思います。

大学の就職課に相談コーナーがあるのですが、皆様が先程仰っていたように、行っていいの  
か分からない、どこか冷たい感じがするといった理由から、学生がなかなか行かなかったんで  
すね。ですが、就職課の方から私が書類をもらってきて、それを授業中に持っていくように学  
生に頼むと、そこが入口となって行くようになるんですね。これは数値で明らかになっており  
まして、ちょうど私が在外研究で留学していたときに、それをやらなかったら、相談件数が数

百は減るんですね。それぐらい入口は重要なので、ここまで上がってくるのはかなりハードルが高いですね。そこは先程のたけのこ掘りのように、何か仕組みがあるといいですね。

大 地： もう終わってしまいましたけど、さいたま市は各区で区民まつりが毎年 10 月、11 月頃に開催されるかと思うのですが、そこにサポセンでブースを出すのではいかがでしょうか。区民まつりは 1 万人から 2 万人もの人が来られるので、周知を図るにはそういう機会があってもいいのかなと思います。

春 華： そのブースにいるのは、我々運営協議会委員でも良いわけですね。サポセンのチラシを置いて、詳細はこちらへお問い合わせくださいといった形で案内する。その際に自分の団体のチラシも配って良いのであれば、私はやってみたいと思います。サポセンにも委員にも双方にメリットがあると思います。それぞれ自分の住まいの区でサポセンを宣伝していただく。そうすれば、人件費はかからないですね。

堀 江： ただそれをやると、行政と契約を結ばなければならない可能性があるので、各区が全て一律に対応できるとは限らないと思います。そこも認識しないといけない気がします。

武 井： 皆さんいろいろ考えられていると思いますが、座長がおっしゃったようにこの場が本当に繋がる第一歩だと思います。本日は欠席されておりますが、さいたまユースサポートネットの武原委員から相談があって、ご自身の活動で、若い学生さんが欲しいけど誰か知らないかと依頼を受けまして、大橋委員に連絡を取って、うまく繋がったんです。それはやはりこの場があったから繋がったというところで、周りに助けを求めれば、助けてくれる世界だと私は思っているんですね。これまでもたくさんの方に助言だったり、声掛けしてもらったりといったことがありましたので、横の繋がりで解決できることもたくさんあると思います。

先ほどの学生さんに関するお悩みも、私がやっている地域のサポセンで、通信制の高校生さんは部活動がないので、市民活動が部活動になっているという話をちょっと聞いたんですね。その地域でも学校の分校があるわけですから、例えば夏場だけの取り組みとか、もちろんたけのこ掘りでも良いと思うんですけど、学生さんが何か活動したいといったときに、先生を介すると本当にうまく繋がるんですね。学生さんの方も安心して参加いただけますし、先生も繋がりがあの方からのご紹介ということで学生さんに紹介しやすいとも聞いております。これも横の繋がりがあってこそそのものだと思っております。困った時は周りに助けてもらうといったことが得策ではないかなとご紹介させていただきました。

座 長： ありがとうございます。官民協働はよく言われるんですが、NPOとNPOが協力するといったような民の協働もあります。別の自治体で、1歳から3歳までの子育て支援をしているNPOと、4歳以降の子育て支援をしているNPOがこういった会議で繋がったことが実際ありまして、非常に上手くいった事例も私は見てきました。この運営協議会は非常に重要な場だと思います。他にはいかがでしょうか。

大 橋： マッチング相談は、新しいボランティアさんを誘うことも大事なのですが、私の知っているボランティアさんの中には、複数の団体に所属して色々な活動をされている方もいらっしゃいます。常に忙しい方々もいらっしゃるかもしれませんが、中には他の活動ができる人たちもいらっしゃると思います。今は何が求められているのかを集約して、そこを繋ぐコーディネーションが相談の中で大事なのかなと話を聞いていて思いました。

また、ご存知かと思うのですが、大宮区のコミュニティ課が「大宮“WA こうど”の会」という専門学校のネットワークを持っていて、学生さん達が区民まつりや防災訓練に参加していま

す。大学、専門学校、フリースクール等のネットワークを、サポセンの方でも構築できると面白いかなと感じたところです。

座長： 学校との連携ということですね。非常に良いアイデアだと思います。

春華： 私も以前、多目的展示コーナーで展示をやる際に学生さんに手伝ってもらったことがあります。飾り付けがすごく大変だったので、本当に助かりました。学生さんはボランティアをやる学校単位がもらえる場合もあるようです。ですが、学生さんが学校を卒業して就職すると、繋がりが途切れてしまう可能性があるのも、そこは非常に苦労しているところです。卒業生さんも働かないと生活できず、ボランティアをしている余裕がないから、連絡だけでも取り合っ繋がりを維持することもあります。ある程度ゆとりができたらまた、ボランティアや市民活動に参加してもらうことができると良いなと思っています。

座長： これまで様々なご意見をいただきましたが、相談しやすい環境は、設備の問題よりも人や雰囲気の問題であるということは見えてきたかと思います。そもそも、どうやってサポセンに来てもらうかといった大きな問題がありまして、ホームページで周知しても、すでに興味がある人しか見ません。そうすると、アウトリーチをしていかなければなかなか周知ができませんので、ここにいらっしゃるキーマンの皆様方のご協力が重要であると思いました。サポセンがアウトリーチした際に、相談しやすかったという声が口コミで広がれば、人がどんどん来るでしょうし、若い人であれば、SNSでどんどん拡散をしていきます。皆様方とサポセンの両輪が上手く回ったときに上手くいくのだろうなと思いましたので、ぜひその辺のところをお考えただけでもよろしいかと思います。本日も建設的なご意見をいただきありがとうございます。以上で議事は終了したいと思います。

#### 4 閉会

座長： 本日の議事は以上で終了となります。事務局から連絡事項等がありますか。

事務局： それでは事務連絡させていただきます。まず本日の会議の会議録ですが、案を作成し、メールまたは郵送にて皆様にお送りさせていただきますので、御発言内容等、ご確認をお願いいたします。また、次回の運営協議会ですが、3月頃に開催したいと考えております。また日程調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。事務連絡は以上です。

座長： それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会を閉会いたします。委員の皆さん、お疲れ様でした。